

平成 31 年 2 月 7 日

【研究題目】院内がん登録を用いた抗がん化学療法と虚血性脳卒中の関係の検討

【研究の目的・意義】悪性腫瘍治療中の患者さんは健常者よりも脳卒中をはじめとする動脈血栓塞栓症を発症するリスクが高く、抗がん剤による影響の可能性が指摘されています。しかし、実際にどの程度抗がん剤により脳卒中のリスクが高まるかは不明です。そこで、がん患者さんを対象に抗がん化学療法と虚血性脳卒中の関係を検討します。

【研究に用いる情報の種類】病歴、がんの状態、治療後経過、画像情報、病名等

【研究に用いる試料】なし

【研究期間】研究機関の長の許可日～2021 年 3 月 31 日まで

【研究の方法】通常の医療において取得された診療情報（既存情報）を用い、阪大病院でがんの治療を受けた患者さんにおいて、抗がん化学療法と脳卒中の関係を検討します。

【研究機関】

大阪大学医学部附属病院 神経内科 教授：望月秀樹

【対象となる方】2007 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日の間、大阪大学医学部附属病院の院内がん登録に登録された患者さん

【個人情報の取り扱い】個人を同定できる情報を削除し、匿名化を行います。学会、論文発表の際にも、個人を同定できる情報が出ることはありません。この研究について、さらに詳しい内容を知りたい場合や今回のデータ使用について同意をいただけない場合には、いつでも構いませんので、お手数ですが下記の問い合わせ先まで連絡ください

【問い合わせ先】

大阪大学医学部附属病院 神経内科

研究責任者：望月 秀樹／職名：助教

研究分担者：北野 貴也／職名：医員

電話番号：06-6879-3571